

2013年度

事業報告書

公益財団法人宇宙科学振興会

2013年度(平成25年度)事業報告書

2013年度は当財団、宇宙科学振興会が2012年4月1日付で公益財団法人に移行して2年目の事業年度であった。新財団の目的は宇宙科学に関する事業への援助及び研究助成等を行い、宇宙科学の振興に寄与することである。この目的に沿って行った公益目的事業は、①宇宙科学奨励賞顕彰事業、②国際学会出席旅費支援事業、③国際学会開催支援事業の3事業である。2013年度においてもこれらの3事業を推進した。従来より施行していた宇宙科学に関する知識の普及・啓蒙活動に関する他団体が中心となって企画された事業への支援・協賛事業は、法人会計の管理費内で継続して施行した。

若手研究者対象とした2013年度の第6回宇宙科学奨励賞は、奨励賞選考委員会の選考結果の報告を受け、宇宙理学分野の若手研究者1名に宇宙科学奨励賞を授与した。今年度は宇宙工学分野に関しては授賞該当者なしとされた。若手およびシニア研究者の海外渡航への支援については関係学会を通じて関係者に周知され、最近では毎年多数の研究者が応募するようになった。日本国内での国際学会主催の支援も近年は助成希望が増加したため、上半期開催分と下半期開催分の2回に分けて公募と審査をおこない、予算の限度内で支援を施行している。

今年度は財団の基本財産の過半数である名目3億円の債券(3件)が満期償還となり、これらの買い替えを進めた。会計処理については2011年度よりは「公益法人会計基準(平成20年4月(平成21年10月改正)内閣府公益認定等委員会)」を適用している。

I. 公益目的事業

(1) 宇宙科学奨励賞

公益財団法人宇宙科学振興会では宇宙理学・宇宙工学の分野で優れた研究業績をあげ、将来宇宙科学推進の中心となることが期待される若い研究者を顕彰し、宇宙科学分野の進展に寄与することを目的とした宇宙科学奨励賞をその前身の財団法人において2008年度に創設した。この事業ではまず関係学会(2013年度現在は15学会)の研究者に候補者の推薦を依頼し、宇宙科学各分野の37歳以下の若手研究者のうち、(この年齢制限は大学院卒業後約10年間を目途とするとの趣旨)で最近著しい成果を挙げている若手研究者を推薦していただく。そして寄せられた推薦に基づいて、各分野の有識者で構成される選考委員会により候補者の審査・選考を進める。選考委員会は原則として宇宙工学関係から1名、宇宙理学関係から1名、合計2名の候補者を選出する。理事長は理事会の委任によりその選考委員会の推薦に基づいて該当年度の授賞者の承認決裁をする。

2013年度は第6回目となるが、今年度より副賞が20万円から30万円に増額された。これに対し理学系9名、工学系3名、合わせて12名の授賞候補者の推薦を関係学会等各分野から受けた。2013年12月2日(月)に第1回、2012年12月17日(火)に第2回の選考委員会が開催され、その間及びその後のメール連絡を含めて審査選考が行われた。選考委員会において審査の結果、理学関係では金沢大学理工研究域准教授の米徳大輔(よねとく だいすけ)氏(2013年

4月1日現在36歳) に対してその研究題目「飛翔体搭載ガンマ線偏光検出器の開発とガンマ線バーストの放射機構の研究」を対象として、第6回宇宙科学奨励賞を授与することとなった。今年度は工学関係に対しては該当者なしとされた。

表彰式は2014年3月11日に霞が関ビル東海大学校友会館において約60名の出席者を得て開催され、米徳大輔氏には松尾理事長より本賞(賞状と表彰楯)と共に副賞(賞金30万円)が贈呈された。当日は引き続き米徳大輔氏による受賞記念講演が行われ、その後財団主催の祝賀会が開かれた。

(2) 若手及びシニア国際学会出席旅費支援事業

この事業は当財団が公益財団法人に移行する前の旧財団法人により 1997 年度に創設された。当初より宇宙理学及び宇宙工学に関する独創的・先駆的な研究活動を行っている 35 歳以下の優れた若手研究者に対して、海外で開催される国際学会に出席する費用の支援を行ってきた。2006 年度以降は、大学及や研究機関などを退職後も、活発な研究活動を行っているシニア研究者に対しても、支援を行っている。

この事業は、従来は年 3 回応募締め切りを設定する公募型の事業であったが、今年度以降は年 2 回の応募に変更することが昨年の理事会で決定され、今年度はその移行過程として変則的に公募が行われた。応募の締め切りは 2013 年 5 月 15 日、2013 年 9 月 15 日、2014 年 1 月 15 日の 3 回とし、対象期間はそれぞれ 2013 年 7 月～10 月、2013 年 11 月～2014 年 3 月、そして 2014 年 1 月 15 日締め切りの募集は次年度、2014 年度 4 月～9 月の渡航を対象とすることとして実施された。これに応募し、旅費支援を申請した書類は当財団の助成審査会において採否が審査される。従来応募総数に対する採択率は平均して 3 分の 1 程度である。審査の結果採択された助成対象者は、その発表論文テーマ、国際会議名、開催場所、日時等の情報を含めて財団のホームページに公表される。そして渡航後には国際会議で発表の成果についての報告書を提出願い、それをホームページに掲載している。

公募年度と対象期間の年度にずれが生じるが 2013 年度においても 3 期に分けた公募を行った。この公募は、財団の公式ホームページの他に関係 15 学会の学会誌または学会ホームページを通じて通知された。採択者には 1 件当たり 10～25 万円の範囲で助成を行うこととしており、2013 年度の予算では期間中に 10～15 件程度の国際会議出席旅費支援を予定したが、審査の結果、6 月に 6 件、10 月に 3 件、2 月に 2 件 合計 11 件(応募者総数 39 件、採択率約 28%)に対して助成採択を決定した(ただし、2 月決定の 2 件は 2014 年度実施)。そして、採択者には公示の枠内(1 件当たり 10～25 万円)で渡航先、開催期間・渡航時期に基づいて算定された助成金が支給された。2013 年度においては本事業の助成金予算額 200 万円であったのに対して実施助成金額合計は 168 万円であった。実施金額が予算案より少ないのは、研究助成審査委員会が採択水準と考える基準に達する応募件数が今年度は少なかったためである。表 1 に 2012 年度～2013 年度に募集し、2013 年度に実施したの国際学会出席旅費支援 9 件の一覧を示す。各採択者の国際学会参加・発表の成果は財団のホームページに記載されている。

表1 2013年度 国際学会旅費支援 助成支援者一覧

| 所 属 | 氏名 (生年) | 国際研究集会の名称 | 主催団体 | 開催地 | 期 間 |
|---|-----------------------------------|--|--|--------------------------------|-------------------------|
| <若手> | | | | | |
| 東京大学 新領域 創成科学研究科 日本学術振興会 特別研究員 | イネモリ タカヤ 稲守 孝哉 (1982.11.17) | 2013年第23回 電気電子 技術学会 磁気技術会議 2013 IEEE 23rd Magnet Technology Conference | IEEE | ボストン、マサチュ ーセッツ州、アメリカ 合衆国 | 2013年7月14日 ～19日 |
| 名古屋大学大学 院工学研究科 航空宇宙工学専 攻 修士2年 | オオノ ショウヤ 大野 翔也 (1990.2.4) | 第43回宇宙環境システムに 関する国際会議 43rd International Conference on Environmental Systems | The American Institute of Aeronautics and Astronautics | ヴェイル、コロラド州 アメリカ合衆国 | 2013年7月14日 ～18日 |
| 九州工業大学 宇 宙環境技術ラボラ トリー 博士研究員 | シミズ タツオ 清水 達生 (1984.7.11) | 第11回国際エネルギー変 換会議 11th International Energy Conversion Engineering Conference | American Institute of Aeronautics and Astronautics | サンノゼ、カリフォル ニア州、アメリカ合 衆国 | 2013年7月14日 ～17日 |
| 東京大学 マテリアル工学専 攻 助教 | イトウ カイタ 伊藤 海太 (1980.6.19) | Quantitative Nondestructive Evaluation Conference | Center for Nondestructive Evaluation, Iowa State University | ボルチモア メリーランド州、 アメリカ合衆国 | 2013年7月21日 ～26日 |
| 東北大学 大学院 理学研究科 地球物理学専攻 助教 | ナカガワ ヒロム 中川 広務 (1978.7.26) | 欧州惑星科学会議 2013 European Planetary Science Congress 2013 | European Planetary Science Congress | ロンドン、イギリス | 2013年9月8日 ～13日 |
| 室蘭工業大学 航 空宇宙機システム 研究センター 特 任助教 | ナカタ ダイスケ 中田 大将 (1981.2.5) | 第33回国際電気推進学会 33rd International Electric Propulsion Conference | Electric Rocket Propulsion Society | ワシントン DC、 アメリカ合衆国 | 2013年10月6日 ～10日 |
| 名古屋大学大学 院 博士研究員 | オギハラ マサヒロ 荻原 正博 (1982.6.6) | 第5回すばる国際会議 5th Subaru International Conference Exoplanets and Disks: Their Formation and Diversity II | 国立天文台 | コナ ハワイ島 アメリカ合衆国 | 2013年12月8日 ～12日 |
| 明治大学 先端数 理科学インステイ チュート 研究員 | イシダ サチコ 石田 祥子 (1979.1.4) | 計算力学のためのアジア太 平洋会議 The Asia-Pacific Congress for Computational Mechanics | Asia-Pacific Association for Computational Mechanics; International Association for Computational Mechanics; Association for Computational Mechanics; International Centre for Applied Mechanics | シンガポール | 2013年12月11 日 ～14日 |
| <シニア> | | | | | |
| 愛媛大学名誉教 授 | ウガイ マサユキ 鵜飼 正行 (1948.1.12) | 地球磁気嵐、磁気圏嵐と宇 宙天気に関する国際会議 | 中国宇宙科学センター | 中国深圳 | 2013年11月3日 ～7日 |

(3) 国際学会・国際研究集会開催の支援事業

宇宙科学分野（宇宙理学、宇宙工学）の国際学会・研究集会を日本国内で開催する組織・団体に対する支援・助成は前身の旧財団法人がその創設（1990年）当初より行われてきた。ただし、当初は宇宙科学分野の国際学会・研究集会の主催は宇宙科学研究所の研究者が行うことが多かったため、全国公募ではなく宇宙科学研究所内部の研究者または衛星プロジェクトなどで宇宙科学研究所と共同研究を進めている各大学の研究者を対象とする一種内部応募の形式となっていた。その後この助成事業に対し全国的に関心・期待が高まってきたことを受け、2007年度よりこれを宇宙科学研究所の事業に限らず、全国の研究機関・大学において宇宙理工学に関する国際学会・研究集会を主催する場合には広く理論分野等も含めて応募できるように、全国の研究機関・大学を対象とした公募型事業に発展させてきた。公益財団法人宇宙科学振興会に移行した後においてもこの事業を継続している。従来は申請を受理するたびに審査会を開催し、その学術的意義と効果の審議により採否の判定をしていたが、財団の限度のある財源内で応募の機会均等性を確保するため、2011年度以降は年度の上半期（4月～9月）開催分の応募の締め切りを前年度1月15日、下半期（10月～3月）開催分の応募申請の締め切りを7月15日として実施してきた。2013年度7月15日には4件の応募があったが、内2件を採択した（加えて2013年1月15日の募集で採択した1件は2013年度に助成実施した）。2013年度支援を実施した国際学会・国際研究集会3件の一覧を表2に示す。この支援事業に対する2013年度の助成予算額150万円のところ実施助成額は120万円であった。各国際学会開催の状況や成果の概要は財団のホームページに掲載されている。

表2 2013年度 国際学会開催支援 助成支援学会一覧

| 代表者所属 | 申請者 | 国際学会名称 | 主催団体 | 開催地 | 期間 |
|-------------------------------|--------------------|---|--|--|-----------------------------|
| 宇宙航空研究 開発機構 宇宙科学研 究所 | マンバラ ヒデオ 松原 英雄 | 次世代赤外線天文衛星 SPICA 国際科学会議 2013 From Exoplanets to Distant Galaxies:SPICA's New Window on the Cool Universe | SPICA 国際科学会議 2013 組 織委員会（本部：宇宙航空研 究開発機構 宇宙科学研究所） | 東京大 学 伊藤 国際学 術セン ター | 2013年6 月18日 ～21日 |
| 一橋大学 大学院社会学 研究科 教授 | オオツボ トシミチ 大坪 俊通 | 第18回国際レーザー測距ワー クショップ 18th International Workshop on Laser Ranging | 本研究集会組織委員会（構成 員：大坪俊通（一橋大学大学院 社会学研究科 教授）、秋山恭 平（JAXA）、国森裕生、久保岡 俊宏（ともに NICT）、渡辺俊一 （海上保安庁海洋情報部）、荒 木博志（国立天文台） および International Laser Ranging Service | 山梨県 富士吉 田市 ハイラ ンドリ ゾート ホテル | 2013年 11月10 日 ～15日 |
| 愛媛大学 理工学研究科 教授 | アワキ ヒサミツ 粟木 久光 | すざく・MAXI 国際研究会 Suzaku-MAXI conference "Expanding the Frontiers of the X-ray Universe" | 主催：愛媛大学、宇宙科学研 究所、 共催：理化学研究所 | 愛媛大 学 | 2014年2 月19日 ～22日 |

II. 財団の管理運営

現在当財団は神奈川県相模原市に所在する独立法人宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所内に一室を借用しこれを事務室として、非常勤事務局長 1 名、非常勤事務職員 2 名の計 3 名体制で財団の管理運営を行っている。会計処理は「公益法人会計基準（平成 20 年 4 月（平成 21 年 10 月改正）内閣府公益認定等委員会）」を適用している。

(1) 宇宙科学に関する知識の普及・啓蒙事業

当財団が一般支援事業として行っている本事業の目的は広く一般国民に対して宇宙科学に関する知識を普及するとともに、若手青少年の宇宙科学に関する興味・関心を深め、宇宙科学の将来の発展に寄与することである。本事業は一般国民、青少年を対象に同様の目的で活動する他団体と連携して行う。

2013年度に支援、後援、共催、協賛を行なった支援先は表3に示す通りである。従来これらの団体からの支援要請に対する受け入れは予算の許す範囲内で常務理事の判断で行なってきた。本事業は他の組織・団体が企画・運営の中心になっている事業への支援であるため、新公益財団法人への移行後はこれらは当財団の公益事業とは認められないので、規模を縮小し経費は財団の管理・運営費（法人会計）から支出することとし、協力の可否は運営委員会で審査することとした。2013年度の支援・協賛額は約73万円であった。

表3 2013年度 啓蒙普及目的一般支援一覧表

| 支援内容 | 支援先 |
|---------------------------------|---------------------|
| 宇宙技術および科学の国際シンポジウム ISTS | (社)日本航空宇宙学会 |
| 君が作る宇宙ミッション協賛金 | 宇宙航空研究開発機構 宇宙教育センター |
| JAXA 特別公開協賛事業 スタンプラリー景品代 | 宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所 |
| 第 23 回モデルロケット全国大会助成金 | 日本モデルロケット協会 |
| 第 21 回衛星設計コンテスト協賛金 2013.11.9 開催 | 財団法人日本宇宙フォーラム |

(2) 基本財産の現況と運用

1990年の当財団創設時に出捐会社・企業等から受けた寄付金は約4億3千万円であった。これはその後財団の基本財産として、長期、元本保証の公社債等で運用されている。2013年度末における基本財産額は約4億5,783万円であり、基本財産の運用に伴う果実は約933万円(約2.04%)となり、前年度実績より約16万円の増加、2011年度実績に対しては約190万円の減収となった。主な減収要因としては2011年末に早期償還となったノルウェー地方金融公社(額面1億円、償還日2034/1/6、変動金利平均4.5%)を、シルフリミテッド債(額面1億円、償還期間(短期4年5カ月)、固定金利年3%)へ買替したことにより、運用金利が低下し大幅な減収となったことが挙げられる。2013年度中には他の大口債券(額面1億円)と合わせて計3口の満期償還があり、これらの買い替えを行った。最近の低迷する経済状況下での買い替えであり、2014年度以降はさらに減収が危惧されたが、資金運用委員会の努力の結果従来の金利水準を引き続き確保できる見通しとなった。2012度に受け取った当初予算編成時には想定外であった500万円の一般寄付と保有債券の金利果実、および会員の賛助会費をあわせて、今後は現在行っている水準の公益目的事業を引き続き実施しつつ、長期間安定した財団運営を行うことのできる見通しが立った。

(3) 一部流動資産の基本財産への繰入れ

上記の想定外の寄付金収益のため2012年度決算において遊休財産保有限度額超過が生じた。この件に関してはその後2013年度中に内閣府担当官からも問い合わせ、注意があった。上記の財団運営状態に鑑み、通常の決算処理を行えば2013年度も遊休財産保有限度額超過が生じることが判明した。複数年に亘って遊休財産保有限度額超過状態の財務処理を継続することは、財団運営としては不相当と判断される。そこで、理事会の議を経て2013年度決算において、「流動資産(普通預金)の一部(350万円)を基本資産へ繰入れる」こととした。これにより2013年度の決算書(財務諸表計算書)において遊休財産保有限度額超過状態を解消することができる。なお、当該基本財産は公益目的で保有する一般基本財産とし、運用益は公益目的事業費として使用することとした。

(4) 賛助会員の加入状況

2013年度の会員数は、12法人(25口[※])であった。(※1口10万円)

(5) 理事会、評議員会の開催

2013年度には次の通り理事会、評議員会を開催した。

- ・2013年5月21日：宇宙科学研究所1階会議室において理事会を開催し、「2012(平成24年度事業報告及び財務諸表等承認の件)他4議案について審議を行った。
- ・2013年6月13日：東京ガーデンパレス3階白鳳の間において評議員会を開催し、「2012年度事業報告及び財務諸表等承認の件」、「任期満了に伴う次期理事・監事の選任の件」、他1議案について承認した。
- ・2013年5月21日：定款第37条(決議の省略)に基づき書面により理事長(代表理事)および常務理事(業務執行理事)の決定を行った。
- ・2014年3月11日：東海大学校友会館霞の間において理事会を開催し、「2014年度事業計画及び収支予算案承認の件」他3議案について審議を行った。

以上

(参考資料)

2013年度 事業別応募採択数（公募年度で集計）
（2013年4月～2014年3月）

1) 国際学会旅費支援

| | 応募申請 (件) | 採択 (件) | 採択額 (¥) |
|--------|-------------|--------|-----------|
| 5/15締切 | 19 | 6 | 1,210,000 |
| 9/15締切 | 8 | 3 | 470,000 |
| 1/15締切 | 9 | 2 | 470,000 |
| 計 | 36 | 11 | 2,150,000 |

2) 国際学会開催支援

| | 応募申請 (件) | 採択 (件) | 採択額 (¥) |
|--------|-------------|--------|-----------|
| 7/15締切 | 4 | 2 | 700,000 |
| 1/15締切 | 2 | 2 | 800,000 |
| 計 | 6 | 4 | 1,500,000 |

3) 宇宙科学奨励賞

| | 応募申請 (件) | 採択 (件) | 採択額 (¥) |
|---------|---------------|--------|---------|
| 10/31締切 | 12 (理9・工3) | 1 | 300,000 |